

山形市風間地区における有害鳥獣対策のための取り組みと地域民の連携について

風間地区有害鳥獣対策協議会
事務局 梅津 茂

講演者プロフィール

- ・兼業農家として稲作やそば、野菜等の栽培。
- ・東部土地改良区の総代を三期務めながら、平成27年に勤務先会社を退職。
- ・山形農協の総代や実行組合長を歴任。
- ・平成29年7月から農地利用最適化推進委員に任命。
- ・令和2年7月から農業委員に任命され、「風間地区有害鳥獣対策協議会」を立ち上げ、設立総会を開催して事務局長に就任。
- ・以後、同協議会の事務局長として事務及び会計の統括に当たり、現在に至る。

山形市の概要

- ▶ 人口：239,770人
- ▶ 世帯数：106,312世帯
- ▶ 面積：381,58Km²
(令和7年1月1日現在の速報)



～主な生産物～

●水稲 ●さくらんぼ ●西洋なし ●りんご ●きゅうり など

～山形市戦略農産物～

●セルリー ●さくらんぼ ●きゅうり ●里芋 ●シャインマスカット など



風間地区有害鳥獣対策協議会の概要

楯山地区

(風間・青柳・十文字・新開・青野)

世帯数：440世帯
(令和7年1月1日現在)
人数：1,134人

伝統野菜

『赤根ほうれんそう』を栽培

新規取り組み果物

『カザマナイア』(ナイアガラの改良)



風間地区のこれまでの状況

- 過去の被害状況（それほど多くない）
 - ・クマ、ハクビシンによるカキやクリ、農地への被害
- 近年の被害状況（甚大な被害）
 - ・イノシシやクマによる稲、ソバ、カボチャやイモ類、サクランボへの被害
 - ・年々拡大の方向に。また、学童や登山者などへの人身被害の懸念

クマによる被害



栗の木のクマ糞



対策が進んで来なかった理由

- ・ 少子高齢化が進み、農産物価格の低迷も加わり、耕作放棄地が増大している。
- ・ 年々、一人暮らしや空き家が目立ってきている。
- ・ 地域住民に専業農家が少なく、兼業農家、多くはサラリーマン家庭であり、対策に関する意識が低い。

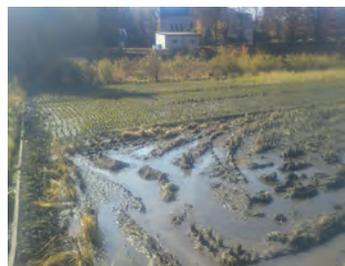
このままではいけない！と地域の有志が立ち上がった

風間地区有害鳥獣対策協議会の設立

- ・ 令和2年7月、主として山形市有害鳥獣被害防止対策協議会鳥獣被害浸入防止施設（以下、防止施設という。）を確保するために、協議会を設立し、承認を得る。
- ・ 既に防止施設を設置し、維持管理しているお隣の高瀬地区の事例を参考に、防止施設確保のための基本方針、実施事項、防護柵の設置、防止施設の種類や予算等並びに令和3年度事業計画の作成について、当協議会の役員や有識者を交えて協議する。
- ・ 事業計画を効果的に実施するため国の補助事業（「鳥獣被害防止総合対策交付金」）を利・活用するために山形市農村整備課鳥獣対策係と再三協議する。

ステップ① 被害を知る：イノシシによる被害

水田での被害



サクランボの木での被害



カボチャ畑での被害



トウモロコシ畑での被害



ステップ② 動物を知る：イノシシと向き合う



ステップ③ 対策を知る：正しい防除や考え方



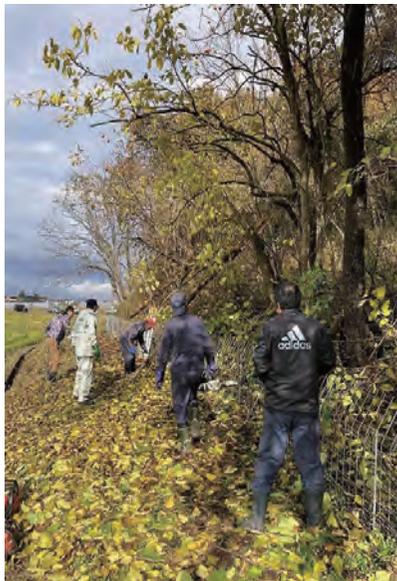
ステップ④ 対策をする：みんなで設置

- ・ 令和3年11月に約5km設置：
 - 設置個所の確認（下見しテープ張り）
 - ⇒ 地権者への使用通知&協力要請
 - ⇒ 業者より事前に設置講習を受ける
 - ⇒ 設置作業実施日の通知&設置作業協力者の確保
 - ⇒ 作業協力者に傷害保険を付保して作業実施
- ・ 各団体の協力体制：協議会構成団体員だけでなく、地域外の協力者や地元企業からの協力者もあり。3日間の設置協力者の総数は延べ人数で150名を超えた。
- ・ 令和4年4月に要望があった個所の設置追加作業を行う（協力者10名）
（山形市鳥獣対策係に報告済）

全体の設置作業風景



一本松周辺の伐採



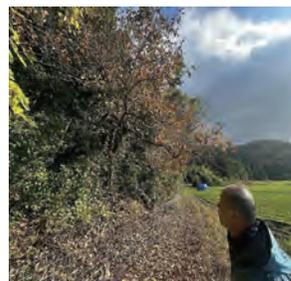
御不動様周辺の伐採



作業前



作業後



転換点（近隣の成功例を知ったのがスタート）

- ・ **地域を知る** : イノシシ被害対策が喫緊の課題
- ・ **仲間** : 有志5名が立ち上がる - 顔見知りネットワーク
(地元農協及び農業委員会、風間町内会、東部土地改良区、農事実行組合、大岡山の会等)
- ・ **動物を知る** : イノシシが沢山いる、クマ被害が多い年、専門業者指導
(クリの木に熊棚が多数見受けられた)
- ・ **仲間を増やす** : イノシシ対策の必要性に関する地区民全体へ回覧板使用による呼びかけ
- ・ **行政も巻き込む** : 山形市や山形県への働きかけ
(特に助成交付金制度について)
- ・ **伝える** : イノシシからの被害に対する個別相談、対応等の伝授

今後の課題

- 小姓原地区への侵入（民家が多く、人身事故発生が懸念される）
 - ・ 菰石川（一級河川）からのイノシシの侵入
 - ・ 河川法上の制約により、有効な対策が難しい
 - ・ 地区民による川の清掃や整備だけでは賄いきれず、不十分であり、行政機関（国や県）からの一層の支援が求められる
- 耕作地と藪：（少しづつ減ってはいるが・・・）
 - ・ 鳥獣の棲家となっている無耕作地や藪の解消が課題
 - ・ 毎年解消する場所を決めて、全地区民から協力者を集い作業実施する
- 山形百名山で年間1万人以上の登山者がいる大岡山、その周辺管理を行う会員の皆様との協働作業の促進を図り、山も田畑も、そして人も守ってゆきたい。



謝辞

- ・ この取り組みにご協力いただいた全ての皆さまに感謝申し上げます
- ・ 特に風間地区住民、山形県並びに山形市の関係者、協力団体の皆さまのご支援があったからこそ、ここまでの成果を得ることができました。
- ・ 鳥獣被害対策に終わりはなく、引き続き努力して参りたいと思いますので、ご支援とご理解の程よろしくお願い申し上げます。
- ・ 本日は、ご清聴頂きまして誠にありがとうございました。